

東京鷹桜同窓会報



「ながい黒獅子まつり」より

巻頭の言葉

丸川 満

(株)愛智出版社長



「光陰矢のごとし」とはよく言ったものである。時はいつの間にか音もなく過ぎ去り、ふと立ち止まれば自らの齢（よわい）に抵抗感を感じずる今日この頃である。想えば14年ほど前、この東京鷹桜同窓会報の編集を担当する羽目となり、何か新しい形で会報をつくれぬものかと案じた結果、できるだけ幅広く同窓生を紹介することにした。当時いつも心の片隅にあったことは、同窓会に出て来るメンバーは常連が多かったので、何らかの都合で出て来れない、あるいは何らかの理由で出て来ない同窓生たちとも、この会報を介して心を通わすことができないだろうか、ということだった。

その後私も多忙をきわめ、遠藤 剛君（昭49卒）、江原明子さん（昭46卒）らに編集の仕事を引き継いでもらったが、このような大変なボランティアを遂行して頂いたことに厚くお礼を申し上げる。なかなか意志の疎通がうまくいかないのが世の常だが、同窓生の親睦を図るためにも言葉（心）を大切にしたいものである。さらに、本会の一層の持続的發展を願って、特に若い新しい感覚の同窓生の参加を期待している。（昭和39年卒）

わが道を行く



ひととの出会い

鈴木嘉彦

麻布獣医学園理事
麻布大学教授

私は、改称後の現長井高校の第1回の卒業生に当たるのだと思います。卒業と同時に上京しましたので、こちらでの生活の方が長くなり、帰省する機会も多くありませんが、昨年、久しぶりに高校の正門の松の木の元に末娘と一緒に佇んで、随分立派になった校舎を見上げ、母校のますますの発展を喜びながらも、在学当時、新潟地震で瓦の落ちた木造校舎がなくなっている様子にいささかの感傷がありました。

私の高校在学中は成績で目立つこともなく、クラブ活動で積極的に身体を鍛えることもせず、いわば、毎日毎日好きな本を読みあさって過ごしましたので、「〇〇大学合格者何名」には全く貢献を期待できない生徒でした。クラス担任のS先生にはこのことは申し訳ないことだったと思っています。私のような不出来な生徒でも許容してくれたような、長井高校の自由な校風と雰囲気をも今でも有難いことだと感謝しております。とくに、古武士のような水野先生や軽妙洒脱の中に大きさを感じさせていただいた「徳さん」先生の誠実な講義は、今でも鮮明に思い出されます。

高校卒業後は、大学紛争の只中で大学生生活を送り、時代的な必然性もあって、来る日も来る日も仲間を抜けては「日本の今の政治はこれでいいのか」とか、鎌倉の松ヶ岡に参禅しながら「宗教と哲学」など訳も分からないまま、堂々巡りの議論を重ねながら多くの友人を得ました。そんな折に、朝永振一郎先生の研究を実質的に支えておられたM博士の知遇を得、漢籍を通じてものの見方や固執することの愚かさなど、私のその後の進路を決する多くの教えを頂きました。

大学卒業後は、神経線維の再生に関心があったことから、脂質生化学の分野を専門にすることになりました。当時の日本の生化学は核酸の研究が本格的に始動し、タンパク質化学全盛といった感じで、脂質を研究するのは少数派でしたが、そんな中、毎日、朝方まで分析を重ねてもなかなか成果が上がらなかったことが昨日のように思い出されます。最近ではDHAなどのある種の脂肪酸の生理

活性や老化のメカニズムと脂肪酸酸化との関連、さらに脂肪組織が沈黙の組織ではないなどの新発見が次々と明らかになり、脚光を浴び脂質研究がある種のブームにまでなっていることは、まさに隔世の感がします。

そんなある日、高校の後輩が入学して、私の研究室に所属することになりました。その頃は、まだ、獣医学科を希望する女子学生は少なく、学科も今のような華やかさもなく、むしろ地味な雰囲気がかけていました。研究室に所属するところの後輩M嬢は、真面目に研究に取り組んでくれるだけでなく、誠実な人柄で学生の面倒を見てくれたり、研究室全体をまとめてくれたりと、若い私は大いに助けられました。彼女は、卒業後直ちに宮城県に奉職し、彼の県の衛生行政には欠くことが出来ない存在として活躍しております。

そもそも、獣医学は軍の要請と畜産行政を中心に明治以来位置づけられ発展してきたわけですが、戦後の日本経済のめざましい発展と、昨今の少子高齢化社会の出現により、特に高齢者のセラピーを支えるための伴侶動物に対する取り組みが求められております。現在、獣医学科を擁する大学は、全国に16大学、学生総定員1000名というきわめて少ないこともあって、志願者が多いようですが、18歳人口の減少と、日本経済の失速など、大学冬の時代といわれる中、さらに、国立大学の独立行政法人化や獣医学科のグローバルスタンダード化（教育水準の国際化）など、難問山積です。

この様な折、丁度の年回りというべきか、大学の管理職に就くことも避けられず、今期は大学理事職を担わされ、慣れない法人行政の難しい舵取りの毎日、若い頃、前記の後輩M嬢と一緒に研究に明け暮れていたことが輝いて思い出されるこの頃です。最近では、入学される後輩も少なく残念です。優秀な後輩が門戸をたたいてくれることを楽しみにしております。ゆっくり帰省することも出来ませんが、高校の恩師、その後の人との出会いを大切にしながら、長井高校の益々の発展と良き校風と長き伝統の輝きを見守っております。

編集責任の丸川先輩のご高配により拙文を掲載していただくことに感謝いたします。(昭和40年卒)

'00同窓会総会『なじょしたったが? 元気が?』

('00.11月11日 飯田橋・摩天楼にて)

少年・少女に戻った笑顔の日!!



今年もお元気に前会長・高橋正二顧問の乾杯の御発声にて宴はスタートです。



竹田一熙さん(昭26年卒)より校歌のテープのプレゼントがあり、合唱部で御一緒だった高橋俊龍会長より御紹介と御礼がありました。



母校より本部長渡部健二さんが御出席。久しぶりの旧友との話も弾まれた御様子です。



いつもお元気な水野多門先生のお話には相変わらず勇気づけられます。



最後は恒例の全員での校歌、100名以上での大合唱となりました。

昭和24年卒業（長井中学第26回）

昭和25年卒業（長井一高第2回）卒業50周年記念同窓会

井上 清

私達は、戦後の学校制度の変革すなわち6・3・3・4制度への移行の時期に当たったため、標記のように2年にわたる卒業生が存在する学年となりました。よって同級会は、常にこの2年にわたる卒業仲間が集まって行っております。

昨平成12年（2000年）は、昭和25年（1950年）卒業から数えて丁度卒業50年を迎えることとなったため、これを記念して、思い出多き懐しい長井において全国同級会を開催することになり、2年間の準備期間を経て平成12年10月10日（火）～11日（水）に行いました。

なお、同級会を「尚志会」の愛称で呼んでおりますが、これは（故）佐藤 剛校長先生より命名していただいたものです。

（（註）故）佐藤 剛校長先生の「心の尚びて生きよ…」との趣旨によるものです。

さて、記念すべき同級会は、10月10日（火）午後2時30分、長井高校正門「建学の松」の前に集合して始まりました。仕事上現役の人も多く、全国から集まった仲間は38名となりました。50年振りに会う懐かしい顔々々でした。

先生のご案内で、まずようやく“改装”成った「旧講堂」を見せていただきました。50年前を懐かしく思い出し、堂内を歩き廻り、それぞれが感慨

深げに見回しておりました。更に校舎内を見せていただきましたが、当時の面影は更にはないものの、昔の建物の位置などのご説明を伺いながら、昔を振り返り懐かしく見学させていただきました。

次いで別室に移り、高井伸一校長先生より歓迎のご挨拶をいただき、併せて在校生諸君の学業並びにクラブ活動につきその伸展状況について詳しくお話をお聞きし、大変力強く感じました。また在校生諸君の、私達一行に対してのさわやかな挨拶もとても印象に残りました。

学校を辞して一夜の会場となる「はぎ苑」（長井市成田）に到着。はぎ苑では、鈴木倉雄先生と山口のぶ先生をお迎えして、実に賑やかに元気に、お互いが50年の歳月を懐かしみ、大いに語り合い、旧交を温めました。（紙面の都合で割愛いたしますが、その場の雰囲気をご想像ください。）

（（註）酒井健一先生もご出席のご予定でしたが、突然ご都合が悪くなりご欠席なされ、誠に残念でございました。）

翌朝もお互いの部屋を訪ねての歓談が続き、50年の想いを思いっきり懐かしんだ記念の同級会でありました。

この全国同級会を推進・進行してくれた、各地区の幹事計17名の各位に心より感謝いたします。

（昭和25年卒）

第二回東京鷹桜同窓会会長杯コンペ報告

開会式の頃は曇り気味とはいえ、晴れていた空も午後には堪えきれないように雨が降り始めた、昨年の10月20日。高橋会長の御高配により、江東区は「若洲ゴルフリンクス」にて第二回東京鷹桜同窓会会長杯ドラゴンカップコンペが、22名の会員の参加で開催されました。

今回は女性会員の参加も過去といっても実質三回目ではありますが、最高の四名と大いに盛り上がり、舌戦も各パーティーにおいて繰り広げられました。

第二回の優勝者は飯澤武さん、そしてベストグロスはアウト43・イン40、トータル83で土屋年彦さんでした。

楽しくも激しい18ホールのパトルの後、場所を神楽坂の「も一吉」に移し盛大なる表彰式となり、飯澤さんにはドラゴンカップが、第一回優勝の菅野清子さんにはドラゴンカップのレプリカが各々



授与されました。

編集子としては、己のスコアもさる事ながら雨のため周囲の東京の新しい顔ともいえる臨海地域がほとんど見えないのが心残りとなりました。

もう一回挑戦したいコースとなりました。参加の皆さん雨の中お疲れ様でした。（遠藤）

故郷・新名所・再発見

～ながい黒獅子まつり～



故郷を離れて久しい私達にとって、懐しい音色といえば「お祭りの太鼓と笛の音」ではないでしょうか。

特に長井地域の出身の皆さんにとっては、『おっさま』がそのシンボルと思います。

今回は、黒獅子の一大イベント「ながい黒獅子まつり」を皆さんに御紹介いたします。

開催時期／毎年五月の最終土曜日の夕方から
※詳しくは長井市役所にお問い合わせ下さい。

開催場所／長井市中央地区

その他／本年の場合、市内のホテル・旅館はほぼ満室であったとのこと。予約は早めが良さそうです。



「水と花の長井」その花の大イベントの一つ、毎年五月に開催される「白つつじまつり」のフィナーレを飾るのが、『ながい黒獅子まつり』です。

長井市には現在40余の黒獅子が伝承されており、本年の場合ではその内14の黒獅子と氏子がこのイベントに参加いたしました。夕刻から夜間にかけて市内中央地域の幹線道路が舞台となります。

中央地域の南北、そして駅前から出発した黒獅子と氏子は警護の先頭のもと、太鼓と笛の音色の中を練り歩き中央十字路に向います。

そして十字路において、警護の『開けろー!!』の大きな叫びの後、力競べとなります。

この「力競べ」こそが、「スタッエロー!!」の声と共に祭りを最高潮に導く瞬間となります。

(写真と文：遠藤)

東京鷹桜同窓会役員・事務局委員紹介

顧問	高橋 正二	(昭和7年卒)	
相談役	川野 カツ	(昭和2年卒)	
	桑島 喜平	(昭和4年卒)	
	安部 欣一	(昭和15年卒)	
	高橋 忠三	(昭和26年卒)	
会長	高橋 俊龍	(昭和25年卒)	
副会長	中島 コウ	(昭和20年卒)	
	木村 繁	(昭和28年卒)	
	綿谷 琴子	(昭和28年卒)	
	丸川 毅	(昭和31年卒)	
常任幹事	椎名 茂	(昭和26年卒)	
	土屋 東一	(昭和35年卒)	
幹事長	沓沢 昇	(昭和31年卒)	
事務局長	安部 俊彦	(昭和46年卒)	
事務局長代理			
	大友 茂之	(昭和49年卒)	
事務局委員 (庶務・行事・会計)	藤野 由美子	(昭和43年卒)	
	権代 みち子	(昭和44年卒)	
	佐藤 いく子	(昭和44年卒)	
	柴田 修	(昭和44年卒)	
	菅野 真実	(昭和44年卒)	
	高尾 美世子	(昭和44年卒)	
	那須 優則	(昭和49年卒)	
	三上 陽子	(昭和49年卒)	
	北村 成子	(昭和51年卒)	
	山口 智明	(昭和61年卒)	
	会報編集委員	丸川 満	(昭和39年卒)
		江原 明子	(昭和46年卒)
		遠藤 剛	(昭和49年卒)
会計監査委員	中山 和弘	(昭和45年卒)	
	森田 光雄	(昭和46年卒)	

東京鷹桜同窓会学年幹事紹介

昭和2年卒	川野 カツ
昭和7年卒	高橋 正二
昭和9年卒	廣田 孝二
昭和10年卒	新野 辰雄
昭和11年卒	長岐 靖朗
	角田 イチロ
昭和12年卒	児玉 ひろ
昭和14年卒	清水 清幸
	屋島 幸一
昭和15年卒	安部 欣一
	大関 ヒロ子
昭和16年卒	横山 きみ子
	熊野 実男
	鈴木 貞
	遠藤 トキ子
	新田 元子
昭和18年卒	竹田 いそ子
昭和19年卒	奈須 テル吾
	井上 忠潔
	河野 淳子
昭和20年卒	長谷部 昭二郎
	高石 篤美
	布施 キク子
	尾山 コウ一
昭和21年卒	中島 修一
	大竹 しげ子
昭和22年卒	諏訪 良助
	横澤 方
昭和23年卒	加藤 光代
	世良 とく
昭和24年卒	樋口 修典
	坂井 節子
	美岩 洋子
昭和25年卒	折居 清龍
	井上 俊宏
	高橋 きよ
昭和26年卒	青木 フサ
	浅田 茂
	内山 忠三
昭和27年卒	椎名 八朗
	高橋 房孝
	大場 孝一
	加藤 宏子
	鈴木 春子
昭和28年卒	向田 恒子
	福田 恒子
	今井 美砂
	衣袋 子繁
	木村



昭和28年卒	新田 正子	昭和39年卒	丸川 満
昭和29年卒	綿谷 琴子	守屋 光澄	屋田 澄子
	大木 順賢	武田 塚春	手塚 礼子
	高石 敏雄	七谷 陽子	根岸 嘉彦
	寺島 智子	仲谷 道子	鈴木 良弘
	平石 恒子	南 須芳	小口 ちゑ子
昭和30年卒	那須 芳文	那須 文治	小平 吹利
	那須 亮子	那須 明昇	万山 隆
昭和31年卒	大原 正明	大原 章毅	昭和42年卒
	小形 昌子	丸山 礼子	昭和43年卒
	高橋 丸山	丸山 清子	鈴木 勉
	丸山 清子	菅野 良二	森戸 繁
昭和32年卒	飯沢 俊子	難波 信子	藤野 由美
	五十嵐 淑子	五藤 清雄	昭和44年卒
昭和33年卒	斎藤 清雄	鈴木 紀男	青木 由行
	安部 静子	柴田 律子	権代 みち子
昭和34年卒	武田 綾子	赤堀 本一	佐藤 いく子
昭和35年卒	坂本 東浩	土屋 武卓	柴田 真実
	安部 澤卓	飯澤 吉子	菅野 美世
	杳 末寺	大道 三郎	高山 英一
	横山 四信	海老名 信子	昭和45年卒
	松田 勝代	荒生 保男	中山 和弘
昭和37年卒	板倉 直子	石井 宏陽	安部 俊彦
	大島 陽根	沢田 美せ	江原 明子
	田所 春子	市川 隆則	大野 治雄
昭和38年卒	村上 淑子	三上 男登	小野 ひで子
昭和39年卒	蒲生 吹		森田 光雄
			湯沢 亮一行
			高橋 喜愛子
			丸茂 友之
			大友 藤剛
			遠那 須上
			昭和50年卒
			江袋 成子
			昭和51年卒
			北村 ちか子
			武木 倫明
			八木 亮子
			昭和52年卒
			阿曾 正晴
			伊東 節子
			昭和53年卒
			星 直樹
			須藤 俊之
			昭和54年卒
			平山 幸樹
			昭和55年卒
			斎藤 淳一
			昭和56年卒
			牛澤 典子
			多田 野勤
			昭和61年卒
			山口 智明

◇事務局からのお知らせ◇

活動報告（平成12年分）

10月 総会案内発送作業（も一吉）。

昭和47年卒、事務局委員、お手伝い有志、総勢25名にて無事終了。

終了後の御苦勞さん会、おおいに盛り上がる。

第二回スーパードラゴン杯ゴルフコンペ開催。

東京都若洲リンクスゴルフクラブにて、参加者23名、優勝者は36年卒の飯澤さん。

11月 総会（飯田橋摩天楼大飯店にて）。

本部長他お客様、会員出席者合計、113名の参加でした。

活動報告（平成13年分）

6月 本部総会。

事務局長他参列。

事務局長、卒業三十周年記念講演。迷調子。

7月 学年幹事会（も一吉）

48名の出席。今年度総会は11月17日(土)。昨年同様、飯田橋摩天楼大飯店に決定。

10月 第三回スーパードラゴン杯開催予定。

平成12年度会計報告

〈収入〉		〈支出〉	
前年度繰越金	586,557	総会費	712,406
年会費	763,490	事務費	248,380
総会費	756,000	会議費	0
御祝金	147,270	印刷費	316,095
受取利息	535	通信費	281,235
		税金	106
計	2,253,852円	計	1,558,222円
		次期繰越金	695,630円

〈事務局より〉

担当学年幹事も一通り巡り、幹事学年を設定することも困難な状態になってきました。すでに2、3年前より、事務局委員の増員と、会員有志によるお手伝いで総会案内発送作業を行っています。一日4～5時間の作業ですが、置賜弁が飛び交い

「くちばりうごがさねで、てえうごがしえ！」の指導が入ることもたびたびです。終わってからの御苦勞さん会も、おおいに盛り上がります。やればやっただけ楽しい一時です。ぜひ参加してください。

長引く不況の中、先行き不安や閉塞感が気が滅んでいる日々が続いている人も多いと思います。同じ根っこを持った者として、仲間意識を持てる、この会は一服の清涼剤として、また、エネルギーの補給源として“元気の互助会”といった機能を持っていきたいと思っています。

◇編集後記◇

木村繁先輩（昭和28年卒）が中心となってこの会報第1号の編集をなされてから、今回でちょうど第20号となります。学年幹事会や総会に出たとき、この会報について聞いてみると、以外に読まれていなくてガッカリしたり、また時にはよく読んでいただき、いろいろ覚えておられることに感激したりもします。ともあれ、東京鷹桜同窓会報が首都圏在住の長井高校同窓生の中にどうやら根付いてきていることは、誠に嬉しい限りです。今度お会いしたら、諸兄諸姉の御感想をぜひ聞かせて欲しいと思います。

今回、久しぶりに役員・事務局委員・学年幹事の皆さんを紹介しました（事務局の名簿による）。学年幹事も、多い学年に少ない学年と様々ですが、まあそんなところでしょうか。安部事務局長によれば、“しゃっこなしがないと始まらない”そうです。全くごもつともです。それぞれ自分たちの学年で始めるクラス会が、その第一歩になるのかも知れません。

老若男女を問わず各方面で御活躍の同窓生の皆さんと懇談をし、いろいろ刺激を受けたり、ふる里の話をするのも結構いいものです。

この会報の校正中に、アメリカでは衝撃的な同時多発テロ事件が勃発しました。そのやり方、犠牲者の数、難航する救出作業、もはや言語に絶します。平和の尊さが痛感されます。（丸川）